

■部会名：環境・文化部会

■部会長（有識者委員）：押谷 一 委員

■市民委員：草野 靖広 委員、高儀 武志 委員、内藤 祐貴 委員、
中野 和代 委員、野戸谷 睦 委員、山田 明美 委員

■概要

1 今後の進め方について

押谷部会長： 環境・文化部会の意見は、多岐にわたった内容となっている。本日のまとめ方について、前回の投票数も考慮に入れながら、この部会での委員の意見を主体に考えていきたい。また、提言書の様式の内容に基づいて重点化していくことを考えていきたい。前回の会議で投票の多かったものやこれまでいただいたご意見を踏まえて、大きくくりな戦略テーマとしていくつか私案として整理してみた。

1つ目として、「①環境と共生し、エネルギーの地産地消をめざすまちづくり」。それから、2つ目として、「②文化のあるまちづくり（音楽など）」、3つ目は、「③スポーツの振興による健康なまちづくり」で、この部会として出せるものはこれらかと思う。

3つの大きな戦略テーマの他に、他の部会に係わらない行政サービスというものも一つ柱としてテーマに掲げている。4番目に「④効率的な行政サービスを推進するまちづくり」というものを案として挙げてあるのでご議論いただきたい。

戦略テーマごとに、マトリックスの意見を張り替えて、民間でやるべきものや他の部会で議論すべきものは除外して、戦略については短期、中期を中心に整理していきたいと思う。戦略テーマとしては、この4点ぐらいかと思うがいかがか。

部会委員： 異議なし。

[戦略テーマ：①環境と共生し、エネルギーの地産地消をめざすまちづくり]

押谷部会長： 議論したい重点事項として事前に意見があった部分も含めてご検討いただきたい。

○ 太陽光や風力、水力の活用が、これから5年ぐらいでできるものなのか。できなければ、長期になると思う。

○ 「環境先進都市に学ぶ」というのは施策にするのは難しいと思うが、環境先進都市に学ぶという考え方は、軸になる部分かと思う。まちのデザインのベースにはなると思う。

○ ポートランドとは姉妹都市提携していないし、資料がないのでよく分からない。札幌

市にポートランドのことを聞いてみたら良いのではないか。

- 短期、中期、長期の施策としてマトリックスを整理できる部分から整理すべきではないか。まちのデザインとしてのより具体的な話になってから、ポートランド等の環境先進都市の話をするべきではないか。
- 環境教育という大括りの中で、興味のある具体的なものとして「野幌森林公園を活用した環境学習」や「学生ボランティアによる環境学習」を挙げたい。
- 環境学習について、実際にやっている情報がない中で議論するのはいかがなものか。自然ふれあい交流館でやっていることを江別側でもやろうということになるのか。
- 特に具合の悪いところがない限り、今までのとおりで良いのではないか。よりレベルの高いことをやるのは良いが、もっと他にやるべきことがあるのではないか。無理に「環境先進都市」に学ぶ必要が本当にあるのかどうか。
- 基本的には、未来的な戦略を考えていくのだから、現状のことを考えて次の1歩を踏み出すということを共通の理解としたい。個別案件について、これはやっている、やっていないという話になってしまっているが、本質的に考えると「環境を活用した教育の充実」など、大きな括りになると思う。つまり、小学校や中学校で子どもたちに江別の環境を活用して学びの場をつくるような体制整備などが求められ、その中で野幌森林公園の活用や学生ボランティアの活用などの具体例が求められるということになると思う。
- すでにあるサービス中で、一般的に興味を持たれておらず利用のない需要を掘り起こしたいという話にするのか、それとも子どもたちに対する教育という話で持っていくのか考えるべきではないか。
- 野幌森林公園については、教育だけでなく、年寄りの健康増進にも繋がる。3番目のスポーツ振興と共通の話になる。
- 野幌森林公園は、ガイドの散策やマウンテンバイクによるツーリングなどいろいろな活用例がある。活用する人は活用するし、活用しない人はしない中で、市全体として「教育」の一環でもっと小中学生に利用してもらうのか。小中学生の利用状況の情報がない中で議論するのはいかがなものか。既にやっているのではないか。
- 今までやっていることだけではなく、もっと深く「教育」の一環としてできないかということである。

押谷部会長： 大沢口のビジターセンターは、北海道が管理しているため、市が独自に何か施設をつくるということはできないと思う。北海道と連携して何をやるかは、これから考えていくべきことかと思う。

- 具体的なことを提言に盛り込まなければならないと思う。市が北海道にかけあって具体的にどう活用していくかをはっきりさせないと、市長が提言を聞いたときに何をしなければならないかが分からない。それでは意味がないので、ある程度提言としての体裁を整えるべきではないか。

押谷部会長： 具体性は、提言の中である程度大事だと思う。短期、中期、長期に分けて、

そしてハード、ソフト、ハートづくりに分けて考えてはどうか。「環境教育」を充実させていくには、どの部分から考えたら良いか。

○ 具体的な「環境教育」というもの自体が分からない。

押谷部会長：「環境教育」という単元自体ないと思う。小学生が身近な環境問題を考えるために、環境クリーンセンターへ見学に行くとか、野幌森林公園で体験学習を行うなど、社会科や理科や総合学習といった科目の中でやっていることである。

○ 学校でやるだけではなく、別な機会に行なっても良いのではないか。

○ 「環境」という言葉は「教育」とすぐに結びつくものではなく、あるがままの自然の状況の中でどうするかということなので、「環境教育」という狭い見方で考えない方が良いのではないか。

○ 『環境と共生し、エネルギーの地産地消をめざすまちづくり』というテーマを仮につくったら、まずハードでは何が必要かということから考えてはどうか。「教育」が良いか悪いかとなってくると別な話になるので一旦置いておいて、今後 10 年間で考えたときに、環境と共生してエネルギーを自ら作りだして、自分たちの力だけで育てていくまちにしようという場合に、一体何が必要かということ議論しなければ進まないのではないか。まずは、ハードの長期から順番に考えていくべきではないか。

○ まず、太陽光や風力の議論で良いのではないか。

○ 実際に、太陽光や風力や水力を考えた場合に、先ほどの教育に関する議論と同じように、本当に風や水量があるのかどうかを考えなければならない。自然エネルギーを利用して何らかの方向に持っていくということなら、夢のある話だけをして駄目ではないか。

○ 確実なのは、雪が毎年たくさん降るので、何かのエネルギーに活用できないか。

○ バイオマスは、ある程度形になっていると思う。

○ 戦略テーマを考えた場合、バイオマスは、まち全体でどのぐらいの規模でできるのか考えなければならない。

○ バイオマスは、民間の話ではないか。農家の協力なしではできないこと。

○ 音頭をとって何かをするのは市でないか。そういう視点からいくと、ハードからソフトまでの仕組みづくりではないか。一から十まで民間であれば民間に任せれば良いが、民間だけではいつまで経ってもできないこともある。行政が関わった方が早くできるのであれば、関わった方が良いのではないか。

○ 太陽光発電について、市で実施しているのではないか。

⇒ 事務局：経済産業省のテストとして本庁舎の壁にパネルがあり、庁舎の電力の一部をまかなっている。いずみ野小学校にも積雪寒冷地用のテストパネルがある。また、八幡地区のクリーンセンターの市有地に 1,500 キロワットのメガソーラーがつけられる。民間企業の手によるものだが、約 560 世帯ぐらいの電力をまかなう工事が、今年から始まる予定である。

○ そういう政策として市がすでにやっているのであれば、太陽光に関しては市民会議と

しても後押しするのが、一番具体的でわかり易いと思う。

○ 風力に関してはどうか。

⇒ 事務局： 風力については、低周波等の環境の問題があり難しい。住宅街のない農村地区でも環境に配慮すべきことなので難しいのではないか。

○ 風力が難しいのであれば、太陽光や雪が使えるのではないか。

○ 農産物を保管する倉庫に雪を活用できないか。

⇒ 事務局： 商業ベースに乗せられるかどうか検討が必要。また、通年で食材を確保できるかどうかの課題がある。

押谷部会長： バイオマスについては、需要と供給の問題、どういうものを原料とするのかという問題があるが、その具体的な内容をどういふ施策としたら良いか。

○ バイオマスのようにやらないよりはやった方が良いということではなく、提言として推し進めていくべき具体的な事項を重点化すべきではないか。

○ 行政の施策は、方向性を指し示すもので、民間でやっているものでも合意形成して10年後にはこの規模でやっていこうと舵をきるのが行政である。そのための施策づくりを考えると太陽光発電を長期の10年後には、この規模まで持っていくという方が良いのではないか。

○ 実現できるかどうかは不明だが、江別で必要とされているエネルギーのうちの何%ぐらいを太陽光発電で間に合わせるといふ目標が必要ではないか。具体的にやっている事業を後押しする内容が一番わかりやすい。どういふ形で提言として入れていくかを議論すべきではないか。

○ 各家庭に太陽光パネルを付けてもらうことも良いのではないか。

押谷部会長： 太陽光発電の電力の買い上げ制度があったり、制度がなければ補助金を出して設置を普及させるというのが自治体で行われてきたが、江別で自然エネルギーの普及を目指していくといふことか。そのために市で補助金を出したり、市としてメガソーラーの発電所をつくったりといふことで良いか。

○ 1つひとつの世帯ではなく、公共施設だけで良いのではないか。

○ 自然エネルギーは関心が高いので、市民として好感を持って受け止められて、もっとやってほしいといふものが、施策としては良いのではないか。現在市で取り組んでいる太陽光発電を中心とした自然エネルギーの開発をもっと推進してほしい、といふことで良いのではないか。

○ 具体としては、例えば、10年後江別市の世帯の5%分ぐらいの電力をまかなうことを目指すといふような言い方になるのではないかと思う。

押谷部会長： 民間企業を市として誘致するといふことはあり得るかもしれないが、どういふ施策でいくのかといふことになる。例えば、各家庭で屋根にソーラーパネルをつけてもらうといふこともある。

○ 市としてできることになるので、江別市のイメージが良くなるような施策が必要ではないか。例えば、「○%の電力は太陽光でまかなう都市である」といふものを持ってい

ると良いのではないか。

- 事前資料の中の景観について、都市景観賞が16回も行われている。もともとあるものについて景観的に良いものに賞を与えていると思う。イメージとして、個人で自由に建物を建てるとちぐはぐな景観となるので、ヨーロッパの街並みのように、江別市として強制できないにしても誘導できるようなことをできないか。そのために、景観に関するアドバイザーをお願いして、家や商店をつくる際に、まちとして連続性のあるものをある程度統一して入れてもらえるようなことを市として尽力できないか。既存のものにはできないと思うが、これから造成地をつくる場合に建築協定を設けることはできないか。

⇒事務局： 8丁目通の街路事業で、新しい建物をつくるときは、建築協定で一定程度レンガを使用するということはあるが、市としての強制力はなく、あくまでも紳士協定である。

- ニセコ町のように、まち全体に対して、市としての街並みの方向性を示すことはできないか。

押谷部会長： 全市的に条例をつくって、例えば家の色彩をどうするということは不可能である。再開発する場合や新規の商店街や宅地に適用していくことは可能性としてはある。

- 都市のイメージづくりとして、すぐにはできないと思うが、長期的な将来で景観を考えてはどうか。1つのコンセプトとして統一・継続してやっていくと良いのではないか。

- 「新規造成地及び再開発地区については、建築協定あるいは地区計画などによって一定の景観の統一性を図る」というようにまとめたら良いのではないか。

- 各造成の地区にそれぞれアドバイザーがいるという形ではなく、市全体としてのアドバイザーがいると良いのではないか。8丁目通の顔づくりに関する発想を継続してやっていったら良いのではないか。

押谷部会長： 「新規造成地及び再開発地区について景観の統一化を図る」ということと、「地区計画等の中に景観の統一化といったものを取り入れて、例えば、造成の条件とするようなものを入れる」ということにしたい。

- もう1点入れていただきたいこととして、密集した住宅地で、冬の雪を捨てる場所を地区の中に一定程度設けることを市として工夫できないものか。

⇒事務局： 公園の他に堆雪スペースを含めて市道で8メートルを確保している。

- 基本的には、雪は自宅で処理するのではないか。

⇒事務局： 住居系の厳しい地区でも建ぺい率が40%、残りの60%が空いている部分となる。自分の敷地内の雪は、自分で処理するのが基本である。

- 10年後の長期計画で何を推進していくのか、どういう状態にするのかということを決めていかないとならないし、ハードやソフトで何をするのかということを考えていかなければならない。何もしないということではなく、いろいろなものが古くなってくるし、今までやってきたことがあるからここまで良い状態になってきたのだと思う。今後10年後、環境として何が必要かを考えるべきではないか。

押谷部会長： 項目に意見として入れるべきもの、外すべきものを検討していきたい。

○ テーマとしては、『環境と共生し、エネルギーの地産地消をめざすまちづくり』というところで良いのではないか。そこに細かいことがいっぱい入ってきて、長期のハードには、「太陽光エネルギーを中心とした自然エネルギーの利用促進」というのが入るであろうし、「環境と共生する」という部分については、「統一的な景観による豊かな住環境、住み良いまちづくりの促進」などというのが入ると思う。中期的には、「レンガを使ったまちづくりを推奨していく」など、あるいは短期的には、地区を指定してどうするなどが入ってくると思う。

押谷部会長： ①については、太陽光云々と、景観の話ということで良いか。

○ 雪の問題ははっきり言って個人の問題である。

○ 雪のことなら、雪が多い江別で10年後に高齢者が住みやすい状態を考えるべきでは。

○ 環境・文化部会なので、雪を邪魔者にするのではなく、雪と「共生」することを考えなければならないのではないか。

○ 今までの形のままで行けば10年後にも排雪しかないという発想のようだが、今までの形を変えて排雪以外にも雪に対応するようなまちがつかれないか。

○ 未来に対する1歩を踏み出すことを考えると、排雪しました、除雪の回数を増やしましたということは提言になりにくいと思う。「共生」というキーワードがあるのだから、雪とも共生するというのを考えるべきではないか。将来的に人口も財政も減少する中で、今までのような体制は無理であるので、豊かに共生していくことを考えなければ未来は拓けない。

○ 雪をエネルギーとして利用するということもある。

○ ①について、3本なら、3本に絞ってから細かい内容を入れ込むべきではないか。

押谷部会長： ①について、大きく「自然エネルギーの利用」、「景観」、「共生」の3本で良いか。

部会委員： 異議なし。

[戦略テーマ：②文化のあるまちづくり（音楽など）]

押谷部会長： 文化の関係についてご意見をお願いしたい。資料要求が委員からあったが、PMFを誘致したいということか。

○ 他都市のように、PMFについて、江別も手を挙げてみたらどうか。また、松本市のサイトウ・キネン・フェスティバルでは、市ぐるみで音楽をやっている。PMFなど、札幌で行われているいろいろな音楽イベントとの差別化をどう図るかという問題もあるが、江別市としてもこういうことがあれば良いと思う。

例えば、中学校でやっている吹奏楽を盛り上げたり、イメージとしては、街全体にクラシックなどの何らかの音楽が流れていて和むというのがあって良いと思う。

○ 音楽を中心とした芸術性の高いまちとして考えたら良いのか。音楽によって顔をつくっていくぐらいの長期計画があっても良いと思う。

- 市内にも音楽愛好者の団体（楽友協会）がある。
- YOSAKOI は、楽しんでいる集団とまったくそこには近寄らない集団がはっきりしているので、個人的にはYOSAKOI というものよりもクラシック音楽が良いと思う。
- クラシック音楽についても興味のある人とない人に分かれるのではないか。
- 10年後に少子高齢化等で世の中が変わった時に、何が残るかを考える必要がある。子どもを育てていく中で、子どもが元気に暮らしている状況でなければ、まちは立ち行かないと思う。教育的な要素を入れて、かつまちぐるみで音楽的・芸術的な要素を入れていって、若い人たちが参加していけるような仕組みをつくり、それを江別の顔にするぐらいでなければならないと思う。
- 情報図書館の利用時間について、月曜日が休みであるが、市では年中無休にはできないものか。

押谷部会長： 公共施設の開館時間については、人件費等のお金の問題になるが、文化施設の利用時間について検討というぐらいでよろしいか。

②の『文化のあるまちづくり』については、今のような3点、PMFと吹奏楽・クラシック、文化施設（アクセス方法も含めて）ということにしたい。

[戦略テーマ：③スポーツ振興による健康なまちづくり]

押谷部会長： スポーツの振興についてはどうか。

- スポーツ振興財団の人たちは、どんな仕事をしているのか知りたい。財団の人たちが市役所の組織とは別であることは分かる。

⇒ 事務局： 体育協会と連携しながら、高齢者等のスポーツ教室や屋外でのスポーツイベント等の仕事をしている。

- 現時点で取り組みが何かしら実施されているものが、項目として挙げられているので、やっていないものをやるとか、やっているものに力を入れていくなどすべきではないか。
- 江別市では、卓球に関して小・中・高校生で力のある子どもが多い。スポーツはいろいろあるが、どの種目に力を入れたら良いかという点、卓球をやっていたら健康の増進につながる。お年寄りも含めた形でスポーツによって江別の顔づくりをできないか。また、全国・全道規模の大会を開くことができ、合宿所の機能を備えた、しかも避難所としての機能も持ち、道の駅としてレストランや農産物の直売所を併設した大きな屋内体育館をつくれぬか。
- 「健康なまちづくり」を目指すのか、「スポーツアスリートの養成」を目指すのか。両方が混ざっている。「健康なまちづくり」を目指すのであれば、多くの人が気軽にスポーツに親しめる環境をつくれれば良いのだが、一方で、個別の競技種目に着目してトップアスリートの養成を目指したまちづくりをしていくということを提言したいのか。
- 競技人口の多い、野球やサッカーといったメジャーなスポーツでは、小学校、中学校

で見ると、コンサドーレといった最終的にプロの予備軍のような下部組織があって、それらは札幌にある。江別につくるのか、それとも札幌まで通うのかということであるが、アスリートをつくるという意味では、その道で行きたいという希望のある人は、今現在では札幌へ通っているのではないか。

- 卓球が強い江別の子どもたちの流れを大事にしたい。全国大会、全道大会を江別に誘致することが大事。まずは、体育館をつくることが大切。レベルアップすると思う。
- それは、市がやることなのか。
- レベルアップするためのアスリートをつくるのが、健康づくりにつながるものかどうかが。「健康なまちづくり」であれば、趣味性が高いので、卓球が好きな人は卓球をやれば良い。音楽もそうであると思うし、スポーツは特に、志向性が高いのではないか。卓球をやらない人は、一生卓球をやらないだろうし、走るのが嫌な人は、一生は走らないと思う。市民運動としての「健康なまちづくり」をする上で何が必要なのか、それぞれの人が、いろいろな場面でスポーツに参加できるようなものをつくっていくべきではないか。卓球だけに特化するのはいかがなものか。
- 冬場の体育施設は、場所の取りあいになっている。
- 体育館をつくる場合は、ランニングコストもかかるので、箱モノをつくることには反対である。

⇒ 事務局：既存の体育館の耐震化の工事の計画はあるが、建替えの予定はない。道立の野幌総合運動公園は宿泊所もあり、この施設をどう活用していくかということになる。各スポーツ団体は、大会を行う場合、どこで開催するかということを中心に各施設側と調整している。市民が日常スポーツをする施設の整備については分かるが、アスリートのための新しい体育館をつくるというのは難しい。

- 職員体制や使用料のことを考えたら大きな体育施設の建設は、難しいのではないか。
- 「市民の健康を増進したい」ということであれば、行政の施策としてやるべきであると思う。継続的に市民がスポーツに慣れ親しむような環境を推進していくという方向性と、ご当地マラソンのようにイベントとして、まちの中に人に来てもらえる環境をつくるということも、先ほどの音楽の話と共通している。大きなイベントでは、宿泊や飲食ということが伴うとともに、地元の参加もある。やきもの市の会場をマラソンの発着点にしたり、また、イベントに参加してもらうための講習会をやったりすることも考えられる。人が来て、お金が落ちて、そして、何かの形で市民スポーツの後押しができるの良いのではないか。
- 20年後の長期として、体育館をつくるためにお金を貯めていくということはあるかもしれない。今は、耐震化対策というぐらいでしかないのではないか。
- スポーツの指導者を配置してレベルアップさせることも大事ではないか。
- レベルアップは、小中学生の話であって、高齢者まで必要なことであるのか疑問である。

- 今実際にやっていることが多々あるので、提言書としては、マラソン大会を行うとか、小中学校に指導者を配置するなどといったことがないと、提言を受け取る側としては困るのではないか。
- 体育館は、少なくとも中期でつくってほしい。並行して、市民のスポーツのレベルを上げていったら良いのではないか。
- 箱モノをつくることには反対である。維持費などを考慮しないで、5年、10年で箱モノを簡単につくると必ず失敗する。

押谷部会長： スポーツ振興については、また議論することとしたい。一応、既存の施設の耐震化などの整備、重点化すべき種目等は別な議論として、大会やイベントで人が集まるような施策提言ということでよろしいか。

部会委員： 異議なし。

[戦略テーマ：④効率的な行政サービスを推進するまちづくり]

押谷部会長： 他の部会に関わらないで共通した部分として行政サービスがここにある。

- この会議がこれで終わってしまってよいのか。

押谷部会長： 今現在では、総合計画を策定するために、市民の皆さんの意見を広く聴取するべく集まってもらったものである。このような会議が今後設置されるかどうかは今後の問題。

- PR不足について、パンフレットを取り寄せてもらったが、江別市内だけのPRでは足りないと思う。

⇒ 事務局：パンフレットは札幌市やJRなどにおいて駅などに置かせてもらっている。また、江別市として単独のアンテナショップはない。東京、大阪、名古屋などの移住促進のイベントなどででもパンフレットを配布してもらっている。

- せっかく世田谷から江別に移住して来ているのだから、東京の世田谷区にパンフレットを置いてもらってはどうか。

押谷部会長： 今日は、私案の①～④の4つの視点で話し合いをしてきた。本来は、マトリックスの意見を戦略テーマの用紙へ移し替える作業をやりたかったところであるが、今日議論した項目について皆さんで次回ご検討いただきたい。

- 今回の部会長の私案をもとに意見として出てきたものがたたき台としてあるので、これで次回議論してはどうか。今日出た項目をもとに、私案としてつくったものを次回にまた用意してもらってはどうか。

押谷部会長： 今日出た意見の内容でマトリックスの私案と提言書のイメージをつくるということにして、過不足があれば、次回調整するということが良いか。場合によっては、他の部会よりも1回多くなるかもしれないが良いか。

部会委員： 異議なし。